

Google Form を利用した英語 4 技能の学習時間記録について

三浦 秀松

(要旨) 英語学習支援の一環として、英語を専攻する大学と短期大学の 1 年生 224 人の学生に 3 ヶ月間毎日英語 4 技能の学習時間について簡単な学習記録を Google Form で回答してもらい取り組みを行った。取組内容と実施状況を報告し、簡単な考察を加えながら、今後の展望を述べる。

キーワード : 英語 4 技能, 学習時間, 継続力, Google Form

1 はじめに

大学が学生の学習支援を行うには様々な形がある。筆者の所属する学科では、学生による定期的な学習行動の振り返りを目的に、学習ポートフォリオ(「学習カードシステム」)の整備を進めている(三浦 2021)¹⁾。より広義のポートフォリオ活動の一環として、2021 年 4 月から学生に日々の英語学習について振り返りを行わせるため簡易な学習記録を毎日提出させる取り組みを行った(記録はポートフォリオに表示)。取り組みの目的や途中経過の報告が本稿の目的である。

2 取り組みの目的

今回の取り組みの目的は学生に継続力(学習習慣)を養わせることである。「社会人基礎力」(経済産業省)²⁾でも継続する力が求められており、学習習慣の形成を通して、継続力を身につけてほしいと考えている。学習習慣の重要性にはちょっとしたきっかけですぐに気づけるものである(三浦 2009)³⁾、支援を行うことで、より多くの学生に学習習慣の大切さに気づいてもらい、ひいては継続力につなげてもらいたい。

3 実施方法

(1) 開始時期, 対象者, 実施時期

2021 年度入学の英語文化学科(大学)1 年生の 184 人と英語キャリア・コミュニケーション学科(短大)1 年生の 40 人の計 224 人を対象に、2021 年 4 月 28 日から開始した。Google Classroom に毎日夕方 6 時に配信されるように Google Form をセットした。回答締切は配信から 24 時間経過後の任意のタイミングで行った。英語のスキルに関する学習記録であるので、スキル中心の科目構成となっている大学の 1 年生と 2 年生、短大の 1 年生を対象に実施する計画である。また、インセンティブとして回答送信の継続率を必修科目の成績に加味することとし、そのことを学生に伝えた上で実施

した。本稿執筆時点の現在(2021 年 11 月)も継続中であるが、本稿で報告するデータの分析対象は 4 月 28 日から 7 月 28 日分まで最初の 3 ヶ月間のデータである。

(2) 質問と回答方法

継続力養成の支援であるので、学生に少しでも継続してもらわなければ意味がない。そこで、回答を毎日継続するハードルをいかに下げることについて腐心した。以下、最終的に Google Form に含めた質問項目である。

まず、4 技能について、各技能につき 1 つの質問(計 4 問)を以下の要領で記載した(Speaking 項目のみを例として示した)。

「Speaking (英語を話した時間: クラスでペアワーク 10 分, スピーチ練習 15 分, 課外にスカイプ 30 分なら 55 分) ※単位は「分」

それぞれ 0 分から 180 分の間で 5 分刻みの時間をこちらで用意し、学生はその日の学習時間に最も近い時間を選んで回答する。

英語 4 技能に関する学習時間の質問の後に一日全体を振り返っての質問「今日のがんばり度」に次の 6 つの選択肢から選択して回答してもらった: 「とてもがんばった (90%以上)」, 「がんばった (80%~89%)」, 「まずまず (70~79%)」, 「ぼちぼち (60~69%)」, 「もっとやれた (10~59%)」, 「明日から頑張る (努力ゼロ)」。

以上の 4 技能に関する 4 問と一日の頑張り度の 1 問の計 5 問だけを回答必須としたが、さらに、「今日知った英語表現メモ」と「今日のひとこと」という回答任意の質問を加えた。前者はその日に辞書を引くなどして初めて知った英語表現を記録することを意図しており、後者はその日の印象的な出来事を記録する簡易な日記となることを意図して設けた質問項目である。

4 データと考察

(1) 回答率（日ごと）

まず日ごとの回答率を調べた。分析対象92日を通し、対象224人のうち、平均して一日あたり137人(61%)が回答を送信した(表1)。回答数が最大であったのは5月7日(金)と5月18日(火)で157人(70%)、最小の日であったのは4月28日(水)の91人(41%)であった。

	人数	割合
平均	137	61%
最大	157	70%
最小	91	41%

(2) 継続率（学生ごと）

図1は全92日間のうち何日間回答を送信したかという継続率ごとの学生数を示している。継続率90%以上の学生が全224人中70人いるので、約3分の1の学生がほぼ毎日回答したことになる。逆に、92日間を通して一度も回答していない回答率0%の学生は9人であった。

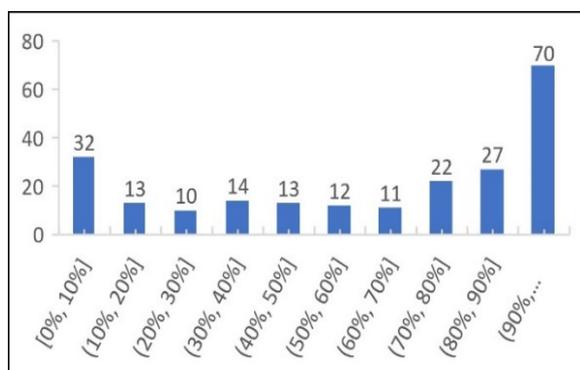


図1 回答率ごとの人数

本稿で報告している学習記録送信期間は前期とちょうど一致するため、回答率と学生の前期の成績に相関があるか調べた。図2は前期の成績(GPA)との相関を表した散布図で、横軸がGPA、縦軸が回答数(全92回)である。相関係数を求めたところ、回答率と成績には中程度の相関が見られた($r = 0.56, p < 0.001$)。

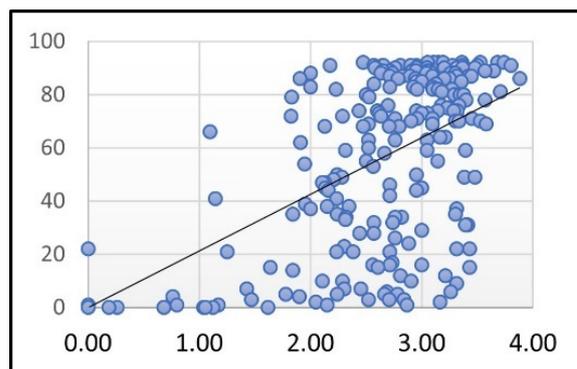


図2 回答率と成績

図の左上(高回答率・低成績)にはほとんど分布しておらず、ばらつきはあるものの、全体として、成績の良い学生ほど回答率が高いという通常期待される通りの結果であった。

(3) 回答送信時間帯

図3は回答送信時間の分布を表している。18時にGoogle FormがGoogle Classroomに投稿されるが、そこから24時までの間に提出された回答が約70%を占めている。これは、就寝前に回答(振り返り)を送信するというこちらで想定している行動パターンと考えられる。全体の中での割合で見ると少なく、0%~1%ではあるが、早朝3時台から5時台という通常であれば就寝中と考えられる時間帯に送信されている件数が188件もあり、不規則な生活になっていないか気になるところである。

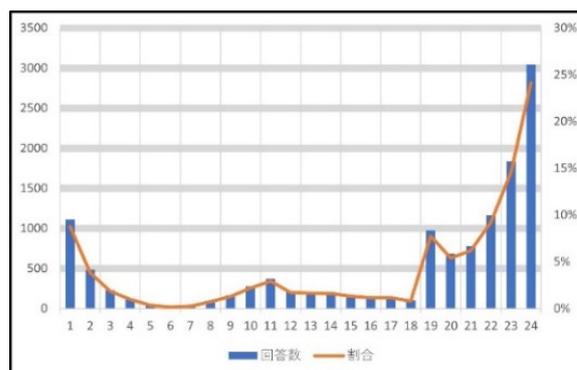


図3 送信時間帯と人数

成績が振るわない、成績が急降下するなどのケースでは、往々にして、生活そのものが乱れていることが疑われる。送信時間データは、生活指導とまではいかなくとも、必要に応じて指導・助言をする際の根拠となるだろう。

(4) 学習時間 (回答必須)

表 2 は英語 4 技能の各技能別学習時間のデータである。4 技能のスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングは Spk, Lsn, Wrt, Rd とそれぞれ略し、全期間 (92 日) を通しての各技能の総学習時間、1 週間あたりの学習時間、1 日あたりの学習時間の 3 種類を示している。右端はそれぞれ合計時間である。

表 2 技能別学習時間

平均単位	Spk	Lsn	Wrt	Rd	Total
3ヶ月	790	1599	1704	2124	6217
1週間	66	133	142	177	518
1日	9	17	19	23	68

(回答1回以上；単位=分)

表 2 に示した通り、英語 4 技能の一日あたりの平均学習時間は 68 分であった。3 節の (2) で例とした Speaking の質問で説明している通り、学生に回答を求めた各技能の学習時間は、90 分のリーディング科目を受講すればその日のリーディングの活動が 90 分というような計算ではなく、授業内の活動も含めた、各技能を行った「実時間」を聞いている。つまり、一日あたりに英語に触れている量 (学習量) が 68 分ということになり、英文の学生としては少ないように感じる。例えば、スピーキングに関しては、1 週間で平均 1 時間ほど (66 分) しか英語を口にしていないということになる。英語を専門に学ぶ英文科の学生として十分なスピーキングの練習量と言えるのか疑問が残る。リーディングには 3 倍近い時間 (177 分) を割り当てていることを考えれば、4 技能の学習のバランスという観点から教育内容を再検討する際の資料となりそうである。

(5) 今日のがんばり度 (回答必須)

図 4 は「今日のがんばり度」という質問の選択肢別回答割合を表している。「ぼちぼち (60~69%)」が 29%、「もっとやれた (10~59%)」が 25%と、半数以上をこの 2 つの項目が占めた。「明日から頑張る (努力ゼロ)」の 14% も含めればこの 3 つの選択肢の合計で 68% となり、約 70% の回答が、「さらなる努力可能」という回答をしていることになる。

一方、学生に与えられた時間は限られており、課題はたくさん出せばよいというものではない。どの大学のどの学科でも、科目の間で課題の量の調整まで行っているケースは減多に無いと思われるが、限られた時間を有効に使うために課題の適正量について検討する際に参考になるデータと思われる。

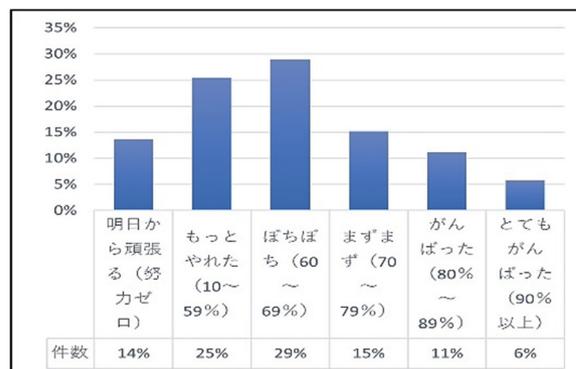


図 4 一日の振り返り

(6) 自由筆記項目 (回答任意)

任意の入力項目 2 つ (「今日知った英語表現メモ」・「今日のひとこと」) について報告する。「今日知った英語表現メモ」については、対象 12610 件 (総回答数) の中で 3350 件 (27%) に入力があった。KH Coder (樋口 2020)⁴⁾ を利用して学生が回答した英単語の頻度リストを作り、上位 150 語を Word Level Checker (染谷 1998⁵⁾、2006⁶⁾) を利用して作ったレベル別頻度表が表 4 である (語彙レベルには SVL12000 を利用)。

表 4 英語表現の語彙レベル

WL Tag	Word Level	Freq.	%
?	Unknown	7	5
1	1,000	64	43
2	2,000	24	16
3	3,000	12	8
4	4,000	14	9
5	5,000	12	8
6	6,000	8	5
7	7,000	4	3
8	8,000	1	1
9	9,000	3	2
12	12,000	1	1
-	TOTAL	150	100

1000 語レベル (中学生レベル) が全体の約 43% を占めている。これは、回答任意であることを知らずに、回答必須項目と誤解した学生が回答送信するためだけに思いつく単語を入力したケースが多かったと推測できる。語彙力強化の一環として設けた項目ではあるが、現状では、こちらの期待とは異なる結果となっており、対応を検討する必要がある。

次に、最後の回答項目「今日のひとこと」(回答任意) について報告する。対象総数 12610 件の回答の中で 4713 件に入力があった (37%)。こちらも KH Coder を利用して頻度表を作成し上位 150 語を抽出した。表 5 はその中の上位 50 語である。

表5 高頻度の日本語フレーズ

No.	抽出語	出現回数	No.	抽出語	出現回数	No.	抽出語	出現回数
1	頑張る	1321	19	見る	122	37	触れる	72
2	今日	938	20	フランス語	110	38	聞く	72
3	明日	674	21	So	106	39	頑張れる	71
4	英語	590	22	終わる	104	40	学習	70
5	勉強	578	23	難しい	100	41	本	69
6	課題	479	24	TOEIC	98	42	バイト	68
7	思う	447	25	集中	97	43	学ぶ	67
8	リスニング	343	26	To	95	44	My	65
9	I	341	27	ライティング	91	45	書く	62
10	時間	295	28	文法	91	46	It	60
11	授業	222	29	多い	88	47	Speaking	59
12	たくさん	165	30	発音	88	48	洋画	59
13	テスト	157	31	疲れる	86	49	表現	57
14	出来る	152	32	少し	84	50	Writing	56
15	読む	152	33	A	79			
16	リーディング	149	34	復習	78			
17	単語	145	35	was	76			
18	スピーキング	136	36	覚える	72			

自由記述データの詳細な分析までは出来ておらず今後に残された課題であるが、頻度表だけからも様々なことが読み取れる。例えば、フランス語への言及が20位(110件)になっており、英語以外の言語にも学生が熱心に取り組んでいることが読み取れる。また、英単語が含まれているが、これはこの「今日のひとこと」に英語で振り返りを書いていた学生がいたためである。

5 学習ポートフォリオでの表示

冒頭で述べた通り、学生の回答は学科で整備を進めている学習ポートフォリオ(「学習カード」)に表示されるようにしている。図5は表示のサンプルイメージである。各4技能の累計学習時間、合計学習時間が棒グラフで表示されている。折れ線グラフは青線が月ごとの推移を表し、赤線は累計学習時間を表している。また、任意の2つの入力項目(「今日知った英語表現メモ」・「今日のひとこと」)については、ボタンを設置し、クリックするとエクセルファイルで出力されるようにしている。



図5 学習時間の表示サンプルイメージ

6 まとめと展望

本稿では2021年度4月から開始した英語学習記録の取り組みと途中経過を報告した。本稿で報告している前期(5~7月)に限って言えば、予想を上回る回答率であったと感じている。

今後については2つのことを予定している。一つは対象学生へのアンケート調査の実施である。意図した通りの学習支援になっているのか、単に負担を増やしているだけなのか改善に向けて調査したい。二つ目に各学期の中間と期末に中期的な振り返り用のGoogle Formの配信を検討している。毎日の回答が難しい学生も学期に2回の振り返りには回答できるのではないかと考えている。今後もリフレクションと自律的な学習を促すためのより良い学習支援のあり方を求めて調査研究を進めたい。

謝辞

英語学習記録プロジェクトは様々な方のご協力により実施されています。ここに記して感謝の意を表します: 米田みたか先生, 佐々木顕彦先生, 福本由紀子先生, 土井斐加氏。

引用文献

- 1) 三浦秀松. 英語学習ポートフォリオの導入意義と開発に関する一考察. 武庫川女子大学情報教育研究センター紀要, 28, 6-14, 2021.
- 2) 経済産業省. 社会人基礎力. <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> (2021年11月15日アクセス)
- 3) 三浦秀松. 英語の「学士力」に向けて--英語をe-learning (NetAcademy2) で学習することに対する学生の意識調査報告. 徳島文理大学研究紀要, 78, 121-136, 2009.
- 4) 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して— 第2版. ナカニシヤ出版, 京都, 2020.
- 5) 染谷泰正. AWKによる語彙レベル分布計測プログラム. 1998. http://www.someya-net.com/kamakuranet/wlc/wlc_manual.html (2021年11月15日アクセス)
- 6) 染谷泰正. Word Level Checker. 2006. <http://someya-net.com/wlc/> (2021年11月15日アクセス)